

びわ北小学校からの報告

「みずすまし」水生生物調査結果表

調 査 場 所 名 (No.)			小観音寺町水路 No.1				高山キャンプ場 No.2				No.3			
月 日 時 刻			5月31日 10時00分				6月10日 13時00分							
天 気			晴れ				晴れ							
水 温 (°C)			12.0 °C				17.0 °C							
気 温 (°C)			20.0 °C				32.0 °C							
川 幅 (m)			0.9 m				5.0 m							
河 川 名			益田川				草野川							
生 物 を 採 取 し た 場 所			全面				川の左岸							
水 深 (cm)			16.0 cm				30.0 cm							
流 速 (cm / s)			20.0 cm/s				33.0 cm/s							
水 の よ う す			指標生物											
I き れ い	1	カワゲラ類					●							
	2	ナカレビゲラ・ヤマトビゲラ クロツツビゲラ類					●							
	3	ヒラタゲロウ類					○							
	4	ブユ類												
	5	ヘビトンボ類					○							
	6	ガガンボ類					○							
	7	サワガニ	○				○							
I・II 共通	8	ウスムシ類					○							
	9	2以外のトビゲラ類	●				○							
	10	3、14以外のカゲロウ類	●				●							
II 少しよごれている	11	ヒラタロムシ類												
	12	ジジミ類												
II・III 共通	13	カワニナ	○				○							
III よごれている	14	サホコカゲロウ	○											
	15	ヒル類												
	16	ミスムシ	○											
	17	モノアラガイ												
III・IV 共通	18	サカマキガイ												
IV 大変よごれている	19	赤いユスリカ												
	20	イトミミズ類	○											
	21	ハナアブ類												
水 質 判 定 表	水のようすの区分		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
	1	みつかった指標生物の 種類の計 (○+●)	3	3	3	1	9	4	1					
	2	みつかった指標生物のうち 一番数の多くあった種類(●)	2	2			3	1						
	合 計 (1欄+2欄)		5	5	3	1	12	5	1					
	判定結果(合計が最も大きい区分)		I・II				I							

○調査考察、活動内容等

本校では、総合的な学習の時間において水生生物調査を行いました。河川の水環境の学習は、5月末に学区内の小観音寺町を流れる川、6月上旬に高山キャンプ場の草野川上流の観察を行いました。去年と同じ地点で水生生物の観察を行い、川や水の様子・生物について調べました。また、学区内にある早崎ビオトープの水環境や自然の変化を観察しながら学習を進めてきました。

(1) 校区の小観音寺町の益田川で水生生物観察会

「水生生物を採取し観察しよう」と計画し、5月31日に小観音寺の益田川や水路で観察会を行いました。

水生生物に詳しい地域の方を講師に迎え、採取の方法や観察の方法について説明を聞きました。

水網で川底をすくい、水を入れたバケツに入れると、多くの水生生物がとれました。楽しく活動し、様々な生き物に触れることができました。観察会のまとめをし、びわ地域の川の水に目を向けるよい機会になりました。

採取・観察した生き物

サワガニ、ナベブタムシ、カワニナ、ニンギョウトビケラ、ツツトビケラ、カワトビケラ、モンカゲロウ、オニヤンマの幼虫、ギンヤンマの幼虫、サナエトンボの幼虫、ハグロトンボの幼虫、ゲンジボタルの幼虫、スジエビ、オタマジャクシ、ミズムシ、サホコカゲロウ、カワヨシノボリ、ドジョウ、アメリカザリガニ、ユスリカ、タニシ、イトミミズ、など

《環境日記より》

- ・身近な川にもたくさんの生き物がいることがわかった。
- ・川底に石や小石、どろなどがあつた。
- ・水の中よりも、川底や田んぼの水路（土）にたくさんの水生生物がいることがわかった。
- ・水生生物は、思っていたより小さくてかわいかった。
- ・きれいなところにすむ、水生生物（サワガニ）がいたので驚いたし、うれしかった。
- ・田んぼの水路の方は川の水が汚くどろもたくさんあり、「大変よごれている」の階級のイトミミズもいた。
- ・カワヨシノボリという魚もいておどろいた。



(2) やまのこ学習

6月10日に、高山キャンプ場で「水生生物の調査・観察」を行いました。学区内の小観音寺の益田川と比較し、川の上流付近の水や生物はどのような違いがあるかを調査することを目的とし、草野川上流で観察会をしました。

活動をしながらか、上流と下流との川底の様子の違いや、とれる生き物の種類や大きさが違うことに気づき、驚きました。また、分類をすることで、とれる指標生物は「Ⅰ」のものが多いいことに気づき、水のきれいさを確認することができました。

採取・観察した生き物

サワガニ、ヘビトンボ、ナガレトビケラ、ツツトビケラ、カワゲラ、ヒラタカゲロウ、ガガンボ、プラナリア、カワニナ、オニヤンマのヤゴ、カエル、オタマジャクシなど

《環境日記より》

- ・草野川は上流の川だったので、川幅が広くて川底の石もごろごろしていた。
- ・約8cmのオニヤンマのヤゴがいておどろいた。
- ・トビケラの仲間がとてたくさんとれ、たくさんすんでいることがわかった。
- ・とても暑かったのに、水温が17℃で冷たくておどろいた。
- ・たくさんの種類の水生生物がとれた。
- ・益田川よりも「（Ⅰ）きれい」の分類の水生生物がとれ、草野川は益田川よりも水がきれいだったということがわかった。
- ・草野川は上流の川だから下流の益田川よりもきれいなのだと思った。



（3）早崎ビオトープ学習

6月18日に地域の専門家の方に来ていただき、早崎ビオトープの歴史や自然について詳しく教えていただきました。日本最大のビオトープ実験地で、豊かな自然を取り戻すための活動が進んでいます。ビオトープ実験調査が始まってから、ヒシの実やコハクチョウが年々増えてきていることを教えていただきました。

早崎ビオトープは、水深が年々深くなってきており、中に入って生き物をとるのは難しくなりました。そこで、地域の専門家の先生に教わりながらペットボトルで作る「びんづけ」というしかけを作りました。



6月28日に現地で調査をしました。当日は、ビオトープの水位を調節していただき、中に入って調査をしたり、前の日にしかけておいたびんづけを引きあげたりしました。水網やびんづけの中にはモツゴやスジエビの赤ちゃん、ヨシノボリなどがたくさん入っていました。また、地引きあみ体験もしました。地引きあみでは底にすむ生き物を採取することができました。あみの中には、大きなフナやモツゴが入っていて、びっくりしました。

たくさんの種類、そして数の生き物がすんでいることに気がつくことができました。

採取・観察した生き物

フナ、コイ、ナマズ、スジエビ、ドンコ、モツゴ、ヨシノボリ、ヤゴ、アメリカザリガニ、ヒシ、ハス、など



《環境日記より》

- ・5月に生まれたスジエビやムツゴの赤ちゃんがたくさんいた。
- ・すみやすい環境だから、新しい命がたくさん生まれてくるのだと思う。
- ・早崎ビオトープは囲まれた場所なのに、その中でもたくさんの種類や数の生き物が生きていることを知った。
- ・2年前にはたくさんいた外来種のカメが見つからなかった。人々の取り組みや努力のおかげだと思う。
- ・ビオトープのまわりには、ヨシ、アシ、マコモ、ガマなどの植物がたくさん生えていた。
- ・フナが鳥に傷つけられていた。魚と鳥の両方のためになる方法が難しい。

(4) 環境学習の発表

7月28日に、オンラインで長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」交流会があり、校区の川やビオトープの水生生物調査の結果や考えたことを発表しました。たくさんの方に取り組みを聞いていただき、また、他の学校の取り組みを聞くことができ、学習のよい締めくくりをすることができました。



(5) 環境学習のまとめ

今までの環境学習を振り返り、考えたことをまとめました。

- ・それぞれの水の環境にあった水生生物や生き物がいた。
- ・環境が変わってしまうと育ちにくくなる生き物もある。
- ・地域の人々の力で、ビオトープというすばらしい自然ができた。
- ・これからも自然を大切に、自分たちにできることを考えたい。